

みんなで咲かそう推奨花
花いっぱい
おもてなし!



2023

燃ゆる感動
かごしま国体・かごしま大会



推奨花 花育でガイド



熱い鼓動 風は南から

特別国民体育大会

燃ゆる感動 **かごしま国体**

2023年10月7日(土)~10月17日(火)

特別全国障害者スポーツ大会

燃ゆる感動 **かごしま大会**

2023年10月28日(土)~10月30日(月)

目次

- 花いっぱい運動……………1
- 推奨花(13種類)……………1
- 栽培スケジュール……………2
- 栽培に関する用語……………2
- 播種から管理……………3~5
- 推奨花の育て方……………6~18



花いっぱい運動

2023年に開催の「燃ゆる感動かごしま国体」と「燃ゆる感動かごしま大会」では、競技会場や沿道、街並みなどを花で彩り、全国から来県される皆さんを温かいまごころのこもったおもてなしでお迎えするために「花いっぱい運動」に取り組んでいきます。

競技会場だけではなく、ご自宅や学校、身近な公園などでも推奨花を育て、花いっぱいのまちでお迎えしましょう。

推奨花(13種類)

1 マリーゴールド



2 サルビア



3 ニチニチソウ



4 コリウス



5 センニチコウ



6 ジニア(ヒャクニチソウ)



7 ペンタス



8 ポーチュラカ



9 ハゲイトウ



10 ブーゲンビリア



11 ハイビスカス



12 クロトン



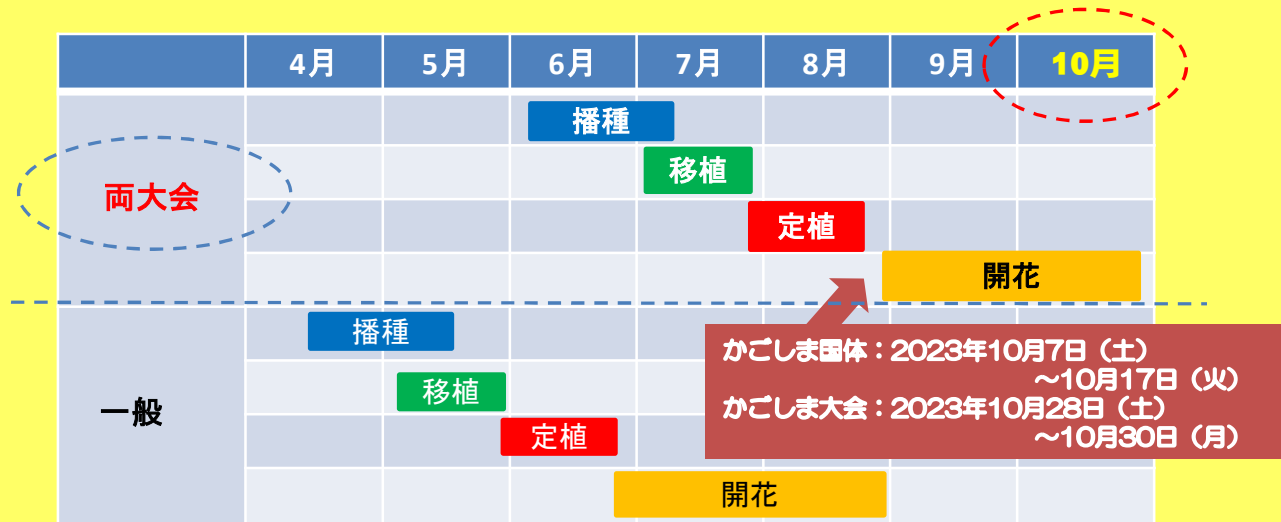
13 ローズマリー



県民のみなさんに花の栽培や装飾に参加していただく際のおすすめの花として、両大会の開催時期にあわせて開花し、育てやすいものを推奨花として選定しました。

栽培スケジュール

推奨花の育て方の各ページには、上段に両大会会期に合わせて開花させる栽培スケジュールを下段に一般的な栽培スケジュールを示しています。
 (天候や栽培環境, 管理状況により前後することがあります)



栽培に関する用語

用語(読み方)	意味, 関連事項等
播種(はしゅ)	種をまくこと。
さし芽(さしめ)	切りとった茎や穂を土や水にさして発芽させること。
覆土(ふくど)	種に土をかぶせること。
移植(いしょく)	育苗箱などで育成した小さな苗をポリポットに植え替えること。
定植(ていしょく)	ポリポットなどで育成した苗を, 花を咲かせたい場所(プランターや花壇等)に植えること。
摘心(てきしん)	先端の新芽の部分を摘み取り, 脇芽の発育を促すこと。花の数を増やすことができ, ポリュームある姿に育てることができる。
切り戻し(きりもどし)	伸びすぎた株を半分程度の長さに切りそろえ, 形を整えること。脇から新芽が伸びだし, もう一度花を咲かせることができる。
花がら摘み(はながらつみ)	咲き終わった花の茎の付け根を摘むこと。種をつくる栄養がなくなり, 次の花をきれいに咲かせることにつながる。
間引き(まびき)	混み合った状態で発芽した苗のうち, 小さいものや弱っているものを抜いて良い株を残すこと。
培土(ばいど)	育成に必要な肥料分や水もちが調整された土のこと。種まき用, 育苗用, 草花用などがある。
追肥(ついひ)	生育の途中に肥料を施すこと。

播種から管理まで



STEP① 播種（種まき）



準備するもの

育苗箱や平箱またはセルトレイ、育苗箱が入る大きさのパッド、種まき用の培土、種
※小さな種の場合は、ピンセットまたは厚紙、つまようじ

用土を敷く

育苗箱や平箱、セルトレイに、種まき用培土（粒の細かい土）を湿らせた状態で敷き詰め、平らにならします。



播種（種まき）と覆土

育苗箱や平箱の場合は、用土にすじ（溝）をつけ、それに沿って種をまき、覆土します。セルトレイの場合は、1穴に1粒ずつ種をまき、覆土します。

※ セルトレイでの播種は、移植で根痛みしないため、その後の生育が良いというメリットがあります。

ポイント1

小さく丸い種は、ピンセットまたは厚紙やつまようじ等で転がすように落としてまく。

ポイント2

大きな種は、種の大きさと同じくらいの深さになるように覆土する。

ポイント3

発芽に光が必要（好光性種子）の場合は、覆土はしない。



播種（種まき）後の管理

種まき後、種が流れないように注意しながら目の細かいジョウロで水やりをします。用土の表面が乾かないように1日数回行います。発芽するまでは、雨が当たらない日陰に置き、発芽後は日当たりの良い場所に移動させます。本葉が出てきたら、用土の表面が乾いたときだけに、水やりをします。

ポイント4

種まき～発芽までは、用土の表面を乾かさないようにし、また、発芽後は加湿（水のやりすぎ）に注意する。

ポイント5

移植までの期間が長い種類の花は、本葉が出てきた後、水やりの2～3回に1回、液体肥料を混ぜる。

STEP② 移植（ポリポットへ植え替え）



本葉が3～4枚になり、根が十分に出ていれば移植の時期です。

準備するもの

ピンセットや小さめのフォークまたは箸（はし）、ポリポット、育苗用培土、苗

ポットの準備

ポリポットの9分目くらいまで培土を軽く詰め、土が乾いていたなら水をやって湿らせておきます。



苗の抜き取り

セルトレイの場合、1穴ごとに根が巻いているので、ピンセットなどで周囲の土とっしょに苗を抜き取ります。育苗箱（平箱）の場合は、根が絡んでいるので、根が切れないように根をほぐしてから抜き取ります。

ポットへの植え込み（移植）

ポリポットの土に指や棒などで穴をあけ、挿し込むような感じでやさしく苗を植え付けます。株元がぐらつかないように軽くおさえて固定した後、水をたっぷり与えます。



移植後の管理

植え込み後は、土の表面が乾いたら、水をたっぷり与えます。植え込み後、1週間程度は植え痛みを和らげるため、一日中、日差しが当たる場所は避けましょう。

ポイント1

移植後、1週間程度で根付くので、緩効性肥料（IB化成等）を1ポットあたり2～3粒ずつ与える。

ポイント2

ポットでの管理中、ナメクジやアブラムシ等の害虫が発生するので、見つけ次第駆除するか、農薬で防除する。

STEP③ 定植（プランター等へ植え替え）



準備するもの

プランター、草花用培土、ポット苗

プランターと土の準備

プランターの容積の4割程度の高さまで軽く土を入れ、平らにしておきます。

苗の抜き取り

苗を痛めないようにポリポットを逆さにして抜き取り、根を軽くほぐします。



プランターへの植え付け(定植)

プランターに3~5株程度をバランス良く配置します。プランターの縁から2~3cm程度低くなるように苗の高さを調整しながら株の根元の周りに土を入れていきます。苗の土と同じ高さまでプランターに土を入れて、最後に苗がふらつかないように軽く押さえて固定します。植え付けが終わったら、水をたっぷり与えます。



ポイント

プランターを直接土に置くと病害虫(ナメクジ等)の食害に侵されることがあるので、ブロックやレンガ等を敷き、地面から離して置くようにする。(セメントやアスファルトの上でも可)

※花壇への植え付けの場合(定植)

定植の1~2週間程度前に、土に腐葉土、堆肥などを適量加えて混ぜておきます。株と株の間を20~25cm程度に保ち、ひとつひとつ丁寧に植えます。

STEP④ 管理



プランターの置き場所

日当たりと風通しのよい場所で管理します。真夏の暑さで花が弱ってしまう場合は、建物の東側など午前中に日が当たり、午後には日陰になるような(西日のあたらない)場所で管理しましょう。



水やり

土の表面が乾いたら、水をたっぷり与えます。

夏の暑い時期は、朝と夕方の2回水やりをします。日中の水やりは、草花が蒸れるので避けましょう。特に、プランターや鉢植えの場合は、水切れしやすいので注意しましょう。また、ホース内に残っている温水をかけないようにしましょう。

肥料

定期的に肥料を与えます。(頻度や量は、推奨花の育て方に記載)。定植後の施肥は、1週間から10日後に、緩効性肥料(IB化成等)を1プランターに15粒程度追肥します。

<株の管理で、高さを抑え、こんもりとボリュームのある形や開花期間を長くできます>

摘芯

ボリュームのある姿にするため、芽を出して花数を増やします。本葉が7~8枚出始めた頃、先端の芽を摘み取ります。次の芽が出たら、同じようにして形を整えます。



切り戻し

株の半分ぐらいの高さで葉や芽が残るようにハサミで切り戻しをすることで、しばらくすると新芽が伸び、再び開花します。

花がら摘み

咲き終わった花は、花茎の付け根で摘み取ることで、病気の発生を減らしたり、新しいつぼみの発生を促すことにつながります。手で摘みにくい場合は、ハサミで切り取ります。この時、痛んだ葉や枯葉も同時に取り除きましょう。

推奨花の育て方

1 マリーゴールド

特徴 一年草で、初夏から秋にかけて黄色やオレンジ色など暖色系の鮮やかな色の花が咲きます。丈夫で育てやすく、花壇やプランター栽培に適しています。小輪で草丈が低いフレンチ種と、大輪のアフリカン種があります。



原産地：メキシコ
 科名：キク科
 花言葉：可憐な愛情、健康、勇者
 花色：黄色、オレンジ、赤など
 別名：クジャクソウ、センジュギク、マンジュギク

播種

育苗箱や平箱に1粒ずつ1~2cmの間隔をあけてすじまきし、種がかくれる程度に覆土します。発芽適温は20~25℃程度と高め、十分な水と温度があれば、5日~7日程度で、発芽します。

移植

育苗中は、日に良く当て、本葉が2~3枚になったらポリポットに移植します。肥料は与えずにしないようにし、緩効性肥料を2~3個まきます。

定植

本葉が7~8枚程度になったら、プランターでは4~5株、花壇では20~30cm間隔を目安に植え付けします。

管理

土の表面が乾いたら水をたっぷり与えます。(夏場は毎日朝のうちに) 終わった花穂の摘み取りはこまめに行いましょう。本葉が10枚程度になったら新芽の部分の摘芯すると、バランスの良い姿になります。生育が良いので、切り戻しや古い枝を取り除き、繁茂しすぎないようにします。

スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
両大会			播種	移植	定植		開花
一般		播種	移植	定植			開花

2 サルビア

特徴

花壇用に品種改良が進められており、様々な花色があります。花自体は数日で落ちてしまいますが、花と同じ色のがくが残るため、初夏から秋まで、長期間に楽しむことができます。



原産地：ブラジル

科 名：シソ科

花言葉：燃える思い， 家族愛

花 色：赤， 白， ピンク（スプレンドス系）， 紫（ファリナセナ系）など

別 名：ヒゴロモソウ

播種

育苗箱や平箱に丁寧にすじまきをし、種がかくれる程度に薄く覆土します。発芽適温は20～25℃で、7～10日程度で発芽します。

移植

本葉が3～4枚になったらポリポットに移植します。肥料は粒状の緩効性肥料を1ポットにつき2～3個まきます。

定植

本葉が8～12枚程度になったら、プランターでは3～4株で等間隔に、花壇では15～20cm間隔程度で植え付けします。

管理

土の表面が乾いたら水をたっぷり与えます。
肥料は、10日に1回程度、液体肥料や緩効性肥料を与えます。真夏の高温期は生育が衰え、花が付きにくくなるので、切り戻しを行った後に肥料を与え、草勢を回復させて開花を促します。
終わった花穂の摘み取りは適宜行います。

スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
両大会			播種	移植	定植	開花	
一般	播種						
		移植					
			定植				
				開花			

3 ニチニチソウ

特徴

白、ピンク、赤など花色が豊富です。乾燥と暑さに強く、夏花壇によく用いられ、初夏から秋まで、長期間花を咲かせます。日当たりと水はけのよい場所が適しています。



原産地：マダガスカル
 科名：キョウチクトウ科
 花言葉：友情、楽しい思い出
 花色：白、赤、ピンクなど
 別名：ピンカ

播種

育苗箱や平箱に1粒ずつ1～2cmの間隔をあけてまき、種がかくれるくらいに薄く覆土します。発芽適温は20～25℃程度で、十分な水と温度があれば、7～10日程度で発芽します。

移植

育苗中は日に良く当て、本葉が2～3枚の小さいうちにポリポットに移植します。肥料は粒状の緩効性肥料を1ポットにつき2～3個まきます。

定植

苗が土にしっかり根付き、本葉が7～8枚になったら、プランターでは4～5株、花壇では20～30cm程度の間隔で植え付けします。

管理

日当たりのよい場所で育てます。乾燥に非常に強い反面、多湿に弱いのので、土の表面が乾いてから水をたっぷりと与えるようにします。

成育中は1週間に1回程度で液体肥料を与えます。

本葉が8～10枚程度になったら新芽の部分を摘芯すると、脇芽が出て茎の数が増え、バランスの良い姿になります。生育が良いので、切り戻しや古い枝を取り除く作業などで、繁茂しすぎないようにします。

咲き終わった花穂はこまめに取り除くと、見た目にもきれいで、病気の発生も抑えられます。

スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
両大会			播種	移植	定植		開花
		播種					
			移植				
				定植			
一般							開花

4 コリウス

特徴

葉を觀賞する草花です。葉や模様がバリエーション豊かで、赤、桃、黄、緑などが組み合わさった葉を初夏から秋まで楽しめます。コリウスだけの寄せ植え以外にも、花壇のアクセントに適しています。高温多湿に強く、育てやすいです。



原産地：熱帯、亜熱帯アジア～アフリカ
科名：シソ科
花言葉：健康、慎み深さ
花色：赤、黄、緑（班入り）
別名：キンランジソ、ニシキジソ

播種

種が小さいので、育苗箱やセルトレイに丁寧に播きます。覆土はしないか、薄くかぶせます。水やりで種が流されないようにします。発芽適温は25～30℃程度と高めで、4～7日程度で発芽します。
※ さし木は比較的簡単で、若い枝を10cm切り、水持ちの良い土を入れて鉢などに挿します。2週間ほどで根が出て生長を始めます。

移植

本葉が3～4枚になったら、ポリポットに移植します。日当たりと風通しのよい場所で管理します。生育適温は15～25℃です。

定植

本葉が6枚程度（ポットの底から根が見える程度）になったら、プランターでは3～4株程度、花壇では30cm程度の間隔で植え付けます。葉の色づきのために、大きく成長する時期にはしっかり日に当てます。肥料をあまり必要としない草花なので、様子を見ながら適宜施用します。

管理

半日陰で、風通しのよい場所を好みます。乾燥には弱いので、水切れさせないように注意が必要です。株が大きく育つにつれ、吸水力が強くなるので、しっかり水やりをします。特に、真夏は朝夕しっかりとあげます。真夏の強光に長時間当たると葉が色あせ、美しさが失われます。葉が10枚程度に育つ頃には、午後の直射日光が当たらないようにします。

スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
両大会			播種				
				移植			
					定植		
						観賞期	
一般		播種					
			移植				
				定植			
					観賞期		

5 センニチコウ

特徴 高温、乾燥に強く、春から秋まで花期が長く続きます。

日当たりと水はけがよく、風通しのよい場所が適しています。乾燥させても色あせず長持ちするので、「千日紅」の名前の由来にもなっており、ドライフラワーにもよく利用されます。



原産地：熱帯アメリカ（グアテマラなど）
 科 名：ヒユ科
 花言葉：不朽，色あせぬ愛
 花 色：白，赤，ピンク，紫など
 別 名：センニチソウ，ゴンフレナ

播種

発芽適温が25℃程度と高めなので、気温が十分に高くなってから種をまきます。種に綿毛がついている場合は、水を吸いにくくなるので、取り除くとよいでしょう。育苗箱や平箱に1粒ずつ1～2cmの間隔をあけてまき、覆土は種がうっすらと隠れる程度にします。2～3日程度で発芽します。

移植

本葉が2～4枚の時期を目安に、ポリポットなどに移植します。肥料は液体肥料と緩効性肥料（玉肥）を適宜施用します。

定植

水はけがよい土壤に、本葉が5～7枚の時期を目安に、プランターでは6～8株、花壇では20～30cm程度の間隔で植え付けします。

管理

暑さや乾燥に強く、日当たりと水はけのよい場所で育てます。多湿に弱いので、乾燥気味に管理し、土の表面が乾いたら水をたっぷりと与えるようにします。根付いたら、追肥を行います。

生育が良いので、こまめに切り戻しを行い、繁茂しすぎないようにします。枯れた葉や花穂はこまめに取り除くと、見た目にもきれいで、病気の発生も抑えられます。

スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
両大会			播種	移植	定植	開花	
		播種	移植	定植	開花		
			播種	移植	定植	開花	
				定植	開花		

6 ジニア

特徴

初夏から晩秋まで咲き、開花期が長いことから、和名でヒャクニチソウ（百日草）といいます。

耐暑性があり、夏花壇によく用いられるなど、丈夫で育てやすい花です。大輪系と小輪系があり、枯れた花を覆い隠すように新しい花が次々に咲くセルフクリーニングの性質を持ちます。



原産地：メキシコ

科名：キク科

花言葉：遠い友への思い、幸せ

花色：白、赤、黄、オレンジなど

別名：ヒャクニチソウ

播種

平箱やセルトレイにていねいにまき、種が隠れるくらいに覆土します。発芽適温が高め（25～30℃）なので、5月以降に播種するようにします。発芽後は、よく日にあてましょう。2～3日程度で発芽します。

移植

本葉が3～4枚（播種後20日前後）になったら、ポリポットに移植します。日当たりと風通しのよい場所で管理し、移植後の肥料は、緩効性肥料を施用し、生育が進むと液体肥料を施用します。

定植

ポットの底から根が見え、本葉が4～6枚程度になったら、プランターや花壇に植え付けます。花壇植えの株間は30cm程度が目安です。

管理

開花期間が長いため、定植後は、肥料が不足しないよう、月に一度ほど追肥を与えましょう。土の表面が乾いたら、朝と夕方の2回、プランターの底から水が出てくるまで水をたっぷり与えます。

枯れた葉や咲き終わった花は取り除きましょう。伸びすぎた場合は、切り戻しを行いましょう。

スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
両大会			播種	移植	定植	開花	
一般		播種	移植	定植	開花		

7 ペンタス

特徴 春から秋まで長期間開花し、耐暑性があり、強く、元気に育ちます。温度が高いと11月ごろまで花を楽しむことができます。低木状のものと、種から育て、鉢物・花壇用の小型・中型の品種が普及しています。



原産地：熱帯東アフリカ、マダガスカル
 科名：アカネ科
 花言葉：夢（希望）がかなう、願いごと
 花色：白、赤、ピンク、紫など
 別名：クササントンカ（草山丹花）、スタークラスター

播種 育苗箱（平箱）にばらまきをし、光を好むため覆土はしない。発芽適温は20～25℃で、発芽日数は10日～15日程度です。播種後は、用土を乾かさないようにしましょう。

移植 本葉が4枚になる頃（播種後20日前後）を目安に、ポリポットなどに移植します。生育適温は15～25℃です。移植後は緩効性肥料を施用し、生育が進むと液体肥料を施用します。

定植 プランターに水はけがよい土壌（底に網を入れ、2～3cm程度軽石を敷く）を準備し、4～5株ほどを植え付けます。花壇では30cm程度の間隔で植え付けします。

管理 暑さや乾燥に強く、日当たりと水はけのよい場所で育てます。多湿に弱いので、乾燥気味に管理し、土の表面が乾いたら水をたっぷりと与えるようにします。水のやりすぎで根腐れを起こすことがあるので注意します。肥料が切れると花付きが悪くなるので、月に2回程度、液肥を与えます。枯れた葉や花がらはこまめに取り除くと、見た目にもきれいで、病気の発生も抑えられます。

スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
両大会			播種				
				移植			
					定植		
						開花	
一般	播種						
		移植					
			定植				
				開花			

8 ポーチュラカ

特徴

夏の暑さや直射日光、乾燥にも非常に強く、茎は地面を這うように横に拡がり、赤、黄、白などの小さな花を咲かせます。初夏から秋まで開花期が長く、夏花壇に最適の草花ですが、日が当たらないと花が咲きません。



原産地：南アメリカ

科名：スベリヒユ科

花言葉：無邪気、可憐

花色：赤、黄、白、ピンク、オレンジなど

別名：ハナスベリヒユ、マツバボタン

播種

発芽適温が（20～25℃）なので、暖かくなってから種をまきます。育苗箱に薄くばらまきし、覆土はしません。さし芽でも増やせます。

さし芽

⇒ 葉の付いた茎を5～10cmに切り採り、下から1～2cmの葉を取り除き、水はけの良い用土に2～3cm挿します。
（発根適温は20～25℃）

移植

本葉が2～3枚の頃にポリポットに移植します。日当たりと風通しのよい場所で管理し、水やりは、多湿にならないよう、2～3日様子を見て、土が乾いてからしっかりとやりましょう。

定植

ポットに根がまわってきたら、プランターでは3～5株で、花壇では20cm間隔で植え付けましょう。密着し過ぎると蒸れて、根が傷みやすいので注意しましょう。

管理

乾燥気味的环境に向いているので、水をやりすぎないようにします。日当たりと風通しのよい場所で管理し、緩効性肥料を1ヶ月に1回、1株あたり2～4粒与えます。（肥料分が多すぎると花が付きません。）脇芽を出してボリュームのある株にするために、適度に摘心を行います。その際、再び花が咲くまで時間がかかるので、咲かせたい時期の約1ヶ月前には切り終えるようにします。

スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
両大会			播種				
				移植			
					定植		
						開花	
一般	播種						
		移植					
			定植				
				開花			

9 ハゲイトウ

特徴

1年草で、赤系、黄色など葉を楽しむ草花です。観賞期間が長く、苗の頃は緑が強いですが、徐々に色づき、黄色から赤へ、秋の低温で強く色づきます。日当たりのよい場所で、やや乾燥した環境を好みます。花は目立ちません。背丈は高くなります。



原産地：熱帯アジア

科名：ヒユ科

花言葉：不老不死、高尚、情愛、気取り屋

葉色：赤、黄など

別名：雁来紅（がんらいこう）

播種

移植に弱いためセルトレイに播種することで、根痛みを防ぐことができます。種子が隠れる程度に覆土します。発芽適温は25℃程度なので5月以降、7月中旬までに種を播きます。

移植

本葉が2～3枚になる頃を目安に、ポリポットなどに移植しますが、根が細いため、移植時には注意が必要です。

定植

根鉢が十分に回ったのを確認してから、プランターでは5～6株程度を、花壇では30～40cm程度の間隔で植え付けします。株間を大きくとり、たくさん植え付けると見栄えが良くなります。

管理

根付いたら追肥を行い、月に1回は化学肥料を与えることをおすすめします。夏場の水やりは、毎日・朝のうちにやります。葉が色づくまでに葉数を増やすと豪華に見えます。手間がかからず、比較的管理はしやすいでしょう。

背丈が高いので、深めのプランターか、直植えがよく、背丈が伸びると支柱などの支えが必要な場合があります。

スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
両大会		播種					
			移植				
				定植			
						観賞期	
一般	播種						
		移植					
			定植				
					観賞期		

10 ブーゲンビリア

特徴

春から夏の鉢花で、鹿児島では1年を通して栽培できます。路地植えで庭木としても栽培でき、丈夫で長期間開花します。美しく着色した部分は包葉で、中心部に白色の小さな筒状の花をつけます。寒さにも比較的強いです。



原産地：中・南アメリカ

科 名：オシロイバナ科

花言葉：情熱

花 色：白，赤，ピンク，オレンジ，黄など

別 名：イカダカズラ，ブーゲンビリア

定植 & 管理

水やり

4月から5月の時期に植え付けを行います。水はけの良い土が適しています。土が乾いたら水をたっぷり与えますが、水やりが多いと開花が鈍い傾向があります。冬は水を控え、乾燥気味に育てます。

肥料

肥料は生育期の4月から10月の間、2～3ヶ月に1回、固形肥料を少量施します。肥料と水を多く与えると枝葉ばかりが茂ってとげが目立ち、花がほとんど咲きません。(肥料と水やりの加減で、年に2～3回開花)

環境

日当たりがよい場所で育てます。日光が当たらないと花が咲きません。1年を通して日光に十分当て、冬は室内管理がよいでしょう。

開花中はちょっとした環境の変化(気温・日照)で花が落ちることが多いので、あまり移動しないほうがよいでしょう。

植替え

根の生育が旺盛で、すぐに鉢内が根で覆われるので、1～2年に1回、一回り大きく深い鉢に植え替えます。植え替えの時期は4～5月です。

さし木

さし木で増やすことができます。適期は6月～7月で、本年に伸びた枝で、生長が止まってしっかりと固くなったものが根が出やすいです。

⇒ 10cm程度に切った枝を30分ほど水に挿して吸水させます。水はけのよい鉢に挿し、水分の蒸発を防ぐビニール袋をかぶせます。明るい日陰に置き、時々水をやると1ヶ月半ほどで根が出ます。

スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
両大会	定植 (植え付け・植替え)						
	開花	切り戻し さし木				開花	
一般	定植 (植え付け・植替え)						
	開花	切り戻し さし木					開花

11 ハイビスカス

特徴

赤やピンク、白、黄などの鮮やかな花色が魅力の低木の花木です。花の寿命はほとんどが1日限りですが、開花期間は長いです。

鉢植えのハイビスカスは高さが30~50cm程度ですが、地植えされている株は2~3m程度まで大きくなります。生長が早く、手間がかからずに育てやすい花木です。



原産地：ハワイ諸島、モーリシャス島

科 名：アオイ科

花言葉：繊細な美、新しい恋

葉 色：赤、ピンク、白、オレンジ、黄、紫など

別 名：ブッソウゲ（仏桑花）、アカバナ

播種

育苗箱や平箱に丁寧にすじまきをし、種子が隠れる程度に薄く覆土します。発芽適温は20℃前後で、5~10日程度で発芽します。

移植

本葉が4~5枚（播種から20日前後）になったら、ポリポットに移植します。肥料は粒状の緩効性肥料（IB化成等）を2~3個まきます。生育が進むと液肥を使用します。

定植

植え付けのタイミングは、本葉が10枚程度で、プランターでは3~4株程度を、花壇では25~30cm程度の間隔が目安となります。大きめの鉢なら、複数本植えることで、時間差で花が咲くばらつきを解消することができます。（本数が少ないと開花していない時期が発生してしまいます。）

管理

水やりは土が乾いた時に、多めに与えます。特に、開花中に水切れするとつぼみが落ちる場合があります。肥料は、月に1回、緩効性肥料を株元に適量を置きます。

落ちた花は放っておくとカビが発生しやすいので、早めに処分します。葉の食害が見られる場合には、定期的に薬剤散布を行います。

スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
両大会		播種					
			移植				
				定植			
						開花	
一般	播種						
		移植					
			定植				
					開花期		

12 クロトン

特徴

葉色と葉形の変化が魅力的な常緑低木の観葉植物です。トロピカルな雰囲気演出でき、熱帯地域では庭木として利用されています。耐暑性があり、日に当てれば当てるほど葉の色が濃く鮮やかになります。



原産地：マレー半島、オーストラリア、西太平洋諸島
 科 名：トウダイグサ科
 花言葉：妖艶、嬌艶
 葉 色：赤、橙、黄、桃、紫などの模様入り
 別 名：ハンヨウボク（変葉木）

さし木・とり木

さし木、とり木で殖やすことができ、10℃以上の気温なら生育可能です。
 さし木⇒ ①枝の先端部分を10cmほど切り落とす
 ②しめらせた土に挿して、日陰で乾かさないように管理
 ③1ヶ月ぐらいで十分な根が出る

移植

さし木、とり木で根が十分にしたら、大きさにあった鉢に植え替えます。肥料は観葉植物用の緩効性肥料を2ヶ月に1回のペースで与えます。

定植

鉢植えが基本ですが、露地でも栽培できます。鉢に根が回ったら鉢替えを行います。植え付けのタイミングは、高さが20cmぐらいになった頃で、プランターなら2～3株、花壇植えなら40～50cm程度の間隔が目安となります。

管理

水やりは土が乾いた時、たっぷり与えます。乾燥には強いですが、冬場には乾燥させすぎないようにします。年間を通して葉に霧吹きで水を与えることで、ハダニ被害も抑えられます。

冬場は、最低10℃前後の温度が必要であるため、屋内や暖房の効いた部屋で管理しますが、暖房温度が高すぎると葉が落ちます。

肥料は、2ヶ月に1回、観葉植物用の緩効性肥料を与えます。

スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
両大会		さし木・とり木					
			移植		定植 (植え付け・植替え)		
					観葉期		
一般		さし木・とり木					
		移植		定植 (植え付け・植替え)			
					観葉期		

13 ローズマリー

特徴

常緑性の低木で、強い芳香が
あって、乾燥させた花や葉が
ハーブティーや薬草、香辛料などに使われま
す。一年を通じて観葉や収穫が可能であり、
家庭菜園やガーデニングに人気で、楽しむこ
とができます。

花の見頃は初夏ですが、開花期間が長く、
秋まで咲きます。



原産地：地中海沿岸

科 名：シソ科

花言葉：追憶、思い出、記憶、誠実

葉 色：白、淡いブルー、うす紫、ピンク

別 名：メイテツコウ（迷迭香）、マンネンロウ（万年朗）

播種

（ローズマリーの殖やし方には種まきとさし木があります）
種まき：育苗箱や平箱にばらまきをし、好光性種子ですが、軽く覆土し
ます。発芽適温は16℃～21℃です。発芽まで、1ヶ月近くかかります。

さし木

さし木：5～6cmに切った茎を挿していると1ヶ月ほどで発根します。
生育は、種をまいて育てるよりは早くて、手間がかかりません。

移植

本葉が4～5枚になったら、ポリポットに移植します。生育適温は15～
18℃です。追肥として液肥を10日に1回ぐらいの割合で与えます。

定植

用土には、川砂などを混ぜた水はけのよい土が適しています。
植え付けは、新芽が伸びる春か秋がベストです。プランターなら4～5
株程度を、花壇や庭植えなら15～20cm程度の間隔が目安となります。

管理

日当たりが良く、風通しのよい場所で育てましょう。耐寒性があり、
冬場の0℃ほどでも問題なく育ちます。

乾燥を好むので、花壇や庭植えには定植直後や真夏以外は水を与える必
要はありません。プランターや鉢植えには、土の表面が乾いてからたっぷ
りと水を与えますが、過湿は良くないので、やり過ぎに注意します。

鉢植えの場合は1年～2年で植え替え（春先がベスト）をしましょう。

スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
両大会	播種・さし木						
		移植					
			定植				
						開花	
一般	播種・さし木						
		移植				さし木	
			定植				定植
						開花期	



県民のみなさん
花いっぱい運動に
みんなで参加だぶ～



燃ゆる感動
かがしま大会
特別全国障害者スポーツ大会

燃ゆる感動
かがしま国体
特別国民体育大会

2023

熱い鼓動 風は南から

【協力校】

- | | |
|---------------|----------------|
| 鹿児島県立山川高等学校 | 鹿児島県立加世田常潤高等学校 |
| 鹿児島県立市来農芸高等学校 | 鹿児島県立薩摩中央高等学校 |
| 鹿児島県立鶴翔高等学校 | 鹿児島県立鹿屋農業高等学校 |
| 鹿児島県立徳之島高等学校 | |

燃ゆる感動かがしま国体・かがしま大会実行委員会事務局

(鹿児島県国体・全国障害者スポーツ大会局 総務企画課)
〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1
電話 099-286-2906
FAX 099-286-5553
E-mail kokutai-kenmin@pref.kagoshima.lg.jp
2018年3月発行

かがしま国体・かがしま大会ホームページ
<https://kagoshimakokutai2020.jp>

かがしま国体・大会 検索

スマートフォン対応



スマートフォンやタブレットでも、かがしま国体の最新情報をチェックできます。